



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と  
ひ  
と  
ツムぐ学生

第27号

2017年8月8日

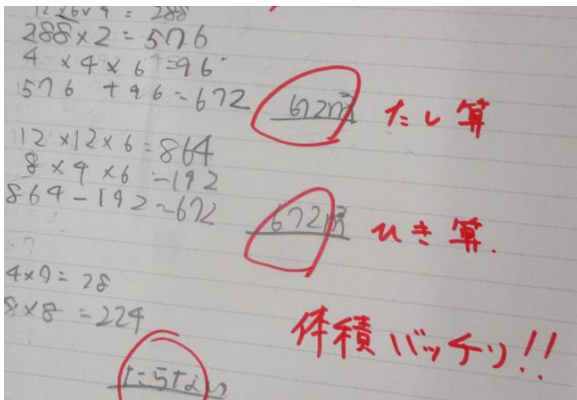
編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

### 夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.6

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、  
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

## 8 / 8 午前 SPさんのノートへの朱書き



SPさんたちが、どんなふうにな算数を教えているのかを見ました。すばらしいです。工夫がすごい。教え方が上手。「大学で学んでいるのかな？」と思って聞いたら、そうではないようです。「SPさんの子どもに対する熱い思い（分かってほしいという思い）」と、「子どもが好きで子どもに全力で関わる姿勢」、この二つが、多くの工夫を生み出すもとになっているようでした。

ノート指導がきちんとされています。672という体積を求めるのに、2通りのやり方を考えさせました。その上で「分割して足す」と「大きい体積を出して不要なところを引く」という二つのやり方を対比させるために、朱書きをノートに入れました。これで子どもの思考は整理されました。さらに「体積は、もうばっちりだね」と声をかけながら「体積、バッチリ！！」と朱書き。これで、あとでノートを見返しても、すぐに理解できるし、何回も嬉しい気持ちになることでしょう。ちょっとした工夫にも、SPさんの「愛情」が伝わります。

次の写真は、遊んでいるわけではなく、体積や容積を「実感」させるために、話をしながら、その大きさを感じ取らせている、そんなジェスチャーをしているところです。

至学館大学のSPさんが、5年生の子に教えていました。「〇〇先生、教え方、めちゃくちゃ上手ですね」と声をかけたら、「ありがとうございます。全力でやっています」とのこと。この「全力」、



誠実さこそが、教育の源です。正直、担任の先生には、ここまで個と関わって算数を教える時間も機会もないのです。そういう点でも、子どもにとって、このわく算は尊い学習です。それを支えてくれるSPさんの姿勢も、尊いです。